

船舶事故調査報告書

平成25年7月11日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 根 本 美 奈

事故種類	作業員死亡
発生日時	不明（平成24年5月24日 08時00分ごろ以降の船体整備の打合せ終了時刻～08時15分ごろの間）
発生場所	広島県広島港第1区の岸壁 広島市所在の広島港元宇品東防波堤北灯台から真方位303°250m付近 （概位 北緯34°20.9′ 東経132°27.9′）
事故調査の経過	平成24年5月25日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての作業員Aからの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	非自航式クレーン台船 ^{かいゆう} 海友号、3,500トン（積載トン数） なし、不詳 50m×19m×5m、鋼 機関なし、不詳
乗組員等に関する情報	作業員A 男性 61歳 海技免状等 なし
死傷者等	死亡 1人（作業員A）
損傷	なし
事故の経過	本船は、広島港第1区の岸壁に係留していたところ、平成24年5月24日08時00分ごろ、作業員A、作業員B及び作業員Cが船体整備の目的で乗船し、船体整備の打合せを行った。 作業員B及び作業員Cは、打合せ終了後、岸壁の工場に赴き、整備用の機材を持って本船の甲板に戻ったとき、作業員Aの姿が見当たらなかった。 作業員B及び作業員Cは、作業員Aを探してハッチ周辺を見回し、08時15分ごろ、広島港元宇品東防波堤北灯台から真方位303°250m付近に係留中の本船において、ハッチコーミングにアルミニウム製伸縮型の梯子（以下「本件梯子」という。）の上端がロープで結ばれており、本件梯子が掛けられた船首側中央寄りのハッチの底に倒れている作業員Aを発見した。

	<p>作業員Aは、ハッチの底から引き揚げられ、病院に搬送されて手当てを受けたが、11時55分ごろ死亡が確認され、多発性外傷による出血性ショック死と検案された。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北、風力 1 海象：海上 平穏</p>
その他の事項	<p>ハッチの寸法は、長さ約24m、幅約16m、深さ約5.5m、ハッチコーミングの高さは約1.55mであり、ハッチ内には船内から出入りできるような開口部はなく、作業員は、いつもハッチコーミングの船首側左右舷2か所に溶接されたステップを昇り、ハッチ内に本件梯子を掛けて降りていた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>不明 なし なし</p> <p>作業員Aの死因は、多発性外傷による出血性ショック死であった。</p> <p>本船は広島港第1区の岸壁に係留中、作業員Aが、08時00分ごろ乗船し、船体整備の打合せを終了したのち、08時15分ごろハッチの底で発見されたことから、08時00分ごろ以降の船体整備の打合せ終了時刻～08時15分ごろの間において、作業員Aが、ハッチの底に転落したことから、病院に搬送されて手当てを受けたが、死亡するに至ったものと考えられる。</p> <p>作業員Aは、ハッチコーミングに結ばれた本件梯子を使ってハッチの底に降りようとした可能性があると考えられるが、転落に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が広島港第1区の岸壁に係留中、作業員Aがハッチの底に転落したため、発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハッチコーミング周辺やハッチ内で作業する際は、単独で行動しないで他の作業員を伴うこと。 ・ハッチの底に降りる際は、命綱を利用し、ハッチコーミング部で作業補助者に身体を支えてもらうこと。